

知事記者会見の概要

日 時：令和5年6月7日(水) 10:00～10:46

場 所：502会議室

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) さくらんぼトップセールスの実施について

代表質問

- (1) 北朝鮮による弾道ミサイルに関する今後の対応について

フリー質問

- (1) 小川瑛次郎選手のFIBA U19 ワールドカップ2023 日本代表選出について
- (2) 台湾でのトップセールスの実施結果について
- (3) 台湾との国際定期チャーター便の運転再開について
- (4) さくらんぼ園地の強風被害について
- (5) 代表質問に関連して
- (6) 令和4年出生数、合計特殊出生率等の公表に伴う所感について
- (7) 政府の「次元の異なる少子化対策」への評価について
- (8) 「やまがた紅王」の販売戦略について
- (9) リスキリング(学び直し)の支援について
- (10) 新型コロナの5類移行後の状況について

<幹事社：朝日・荘日・NHK>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

先週 6 月 2 日に、四国地方から、近畿、東海、関東地方で非常に激しい雨が降り、死傷者や行方不明等の人的被害、家屋の全壊など、甚大な被害が発生しました。

亡くなられた方や御遺族に対し深く哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

これから、大雨が懸念される時期を迎えますので、県民の皆様には、改めて御自身が住んでいる地域のハザードマップや避難経路の確認を行うなど、日頃から災害に備えていただきますようお願いいたします。

次に「福祉マスクドライブ」について申し上げます。

4 月 12 日から 5 月 31 日まで取組みを行っていましたが、計 44,952 枚、箱にしますと 931 箱のマスクをお寄せいただきました。県内外から、個人のほか企業単位での御提供もいただいたところです。多くの皆様からの善意に改めて感謝を申し上げます。

集まりましたマスクにつきましては、高齢者施設や障がい者施設を対象に、現在、希望をまだ募っております。今後、福祉・介護の現場に順次お届けをしてまいります。

なお、福祉マスクドライブでご提供いただきましたマスクに加え、これまでの県の備蓄や寄附も含めて配布してまいります予定でございます。

次に^{おおがゆうこ}大神雄子氏について申し上げます。

山形市出身で、女子バスケットボール日本代表の主将として活躍し、現在トヨタ自動車女子バスケットボール部監督の大神雄子氏が、国際バスケットボール連盟（FIBA）の殿堂入りを果たしたことにつきまして、心よりお祝いを申し上げます。

日本人で 3 人目、女性では初めてということでもあります。これまでの選手としての活躍やバスケットボール界の発展に貢献した功績が高く評価されたことを大変喜ばしく思っております。

今後ますます、日本のバスケットボール界をリードされることを期待しております。

次に、台湾でのトップセールスについて申し上げます。

先月 29 日から今月 1 日までの 4 日間、台湾を訪問して、トップセールスを実施してまいりました。

台北市では、県産品の輸出拡大に向けて、現地の農産品輸入企業や地元メディアに対し、本格デビューを迎えた「やまがた紅王」のプロモーションを行いました。やまがた紅王の試食もしていただき、大変好評でありました。また、現地農産品輸入企業の代表や台湾山形県人会会員など、発信力のある 9 名の方を「やまがた紅王応援大使」に委嘱して、幅広い場面でやまが

た紅王を PR いただけることとなりました。

また、台北市、桃園市では、中華航空、タイガーエア台湾の航空会社 2 社のほか旅行会社 2 社の幹部とお会いをしまして、コロナ禍で運航が中断していた台湾との国際定期チャーター便の運転再開について、積極的に働きかけを行いましたところ、中華航空から、本年 10 月上旬から 11 月上旬の秋季、秋に 16 往復・32 便の運航を計画する意向が示されたところであります。引き続き樹氷など台湾の方に人気のある冬季、冬につきましても運航を計画していただけるよう、働きかけてまいります。

宜蘭県では、平成 30 年 5 月にオープンしたホテルの「山形閣」というのがございますけども、その中に開業当初 5 年間との期限付きで設置された山形県の PR コーナーがございます。このコーナーを引き続き設置して PR していただけることとなりました。

県としましては、これまでの成果を活かし、今後とも本県の魅力を更に発信して、インバウンド拡大や県産品の輸出促進、交流拡大に取り組んでまいります。

それから、「やまがた紅王」は今こんな感じです。これでございます（補足：知事が、現在のやまがた紅王の生育状況を映した写真フリップを提示）。

やまがた紅王の果実が、だいぶ色づいてまいりました。果実の大きさは、500 円硬貨より大きくなりました。来週の収穫までに、もっと大きく、色つやが良くなりますので、大変楽しみです。

今年はですね、昨年に比べて約 4 倍、20 トン程度の収穫を見込んでおりますので、県民の皆様も楽しみにお待ちいただきたいと思います。

県内では「佐藤錦」の収穫期を迎えております。ただ今月 4 日の日曜日に強風がありまして、村山地域全域で雨よけハウスのビニールが破損するなど、生産者の皆様は、大変忙しい中でその対応に追われ御苦労されているところであります。

生産者の皆様には、農作業事故にくれぐれもご注意をしていただきながら作業していただきますようお願いいたします。

ここで私から発表が 1 点ございます。

今週 9 日金曜日に東京都中央卸売市場「大田市場」、そして 10 日土曜日に大阪市中央卸売市場におきまして、JA 全農山形の折原（敬一）会長と一緒に、さくらんぼのトップセールスを行ってまいります。

市場関係者の方々に、本格デビューを迎えた「やまがた紅王」、そして、日本一の「山形さくらんぼ」、これを強力にアピールしてまいりたいと考えているところであります。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

庄内日報の元木です。よろしくお願いします。

北朝鮮による弾道ミサイルに関する今後の対応についてお伺いします。先月 31 日に「衛星」と称する物体の打ち上げがありましたが、事前通告のあった 11 日までに 2 回目の打ち上げが示唆されています。

そういった警戒が高まる中で、昨日、高畠町で行った 3 回目となる国との共同訓練を受けての知事の所感と本県の今後の対応について、お聞かせください。

知事

はい、北朝鮮の度重なる弾道ミサイルの発射は、国連安全保障理事会決議に違反し、自制を求める国際社会の声を完全に無視した行為であります。また、県民に大きな脅威を与えるものでありますので、強く非難するものであります。

県では、昨日 6 日、高畠町を会場とし、弾道ミサイルがわが国に飛来することを想定した住民避難訓練を、政府、高畠町と共同で実施したところであります。

訓練の実施により、迅速な避難行動の大切さや、具体的な避難行動が改めて確認できたと考えております。この訓練には、高畠町住民の方や職員が参加したほか、周辺の自治体職員、米沢市とか飯豊町とかですね、そういった周辺自治体の職員なども参観をしております、有事の際の適切な避難行動の呼びかけにつながるものと期待をしております。

秋、11 月 14 日には、山形市でも同様の訓練を実施する予定としております。こうした訓練なども通して、緊急時に取りべき行動のほか、緊急一時避難施設につきまして、県民の皆様に広く周知をまいります。

県としましては、引き続き、政府からの情報収集や市町村・関係機関との連携に努め、県民の安全確保に万全を期してまいります。以上です。

☆フリー質問

記者

ありがとうございます。もう 1 点、ちょっと話題変わりますが、男子バスケットボール U19 ワールドカップ、6 月 24 日からハンガリーで開催されます。そちらに本県の羽黒高校の小川瑛次郎選手、3 年の選手が出場されますが、小川選手に対するそういった期待などを知事のほうからもしあればお聞かせください。

知事

そうですね、ワールドカップというので世界の舞台であります。そこにですね、本県の選手、高校生が出場されるということは、本当に喜ばしいことだと思います。日頃の修練と言いますか、精進しておられますその成果を存分に発揮してですね、大活躍してきていただきたいとい

うふうに思っております。

記者

ありがとうございます。代表社からは以上です。

記者

山形新聞の鈴木です。おはようございます。

国際チャーター便についてお聞きします。台湾からの本県への海外旅行客というのは、2019年で全体の半数以上を占めるというすごく大きなインバウンドの対象国だったわけですが、まず台湾からのチャーター便の復活、運航再開を知事はどのように受け止めているのかということと、これを継続されるには県としてどのような取り組みが必要かということをお聞きします。

知事

はい、インバウンド再開ということで、全国的に盛り上がっていると思います。そして、本県の一般インバウンド、外国人の、海外からのお客様は、コロナ前はですね、半分が台湾からのお客様だったというふうに記憶をしております。大変重要な誘客先でありますので、今回も、「コロナ後」と言っていていかどうかわかりませんが、「5類」に移行して初めて、台湾を訪問してチャーター便の働きかけを行ってきたところであります。

そこで、秋ですね、10月から11月までの1か月間で32便というお話をいただいてまいりました。まずは、そこが皮切りだと思っておりますし、その後の冬、さらにはその次の来年の春、夏、秋というふうにずっと継続して山形県と台湾とのですね、チャーター便が運航されるということが非常に強い期待を持っておりますし、観光業界も同じ思いだというふうに考えております。

冬につなげるためには、やはり秋のチャーター便をですね、成功させるということが大事だということをおっしゃっておりました。やはり山形県、県民全体で、温かくお迎えするというようなことは、非常に重要なことだということに思っております。観光産業界はもちろん、県民みんなですね、温かくお迎えをしていきたいというふうに思っております。

そして、なんと言いましても、他県との競争みたいなことにもなっております。そういう中で、山形県としての強みというものをしっかりPRしていくということが大事だと思っております。

見るだけということではなくてですね、伝統文化を体験したり、農作業を体験したりとか、県民の皆さんと触れ合ったりとか、様々な需要、ニーズがあるのではないかと考えておりますので、そういったこともしっかりと把握をしながら、皆さんに喜んでいただける、リピーターになっていただける、そういう山形県の観光を進化させると言いますか、そういったことにしっかり取り組んでいく必要があるのではないかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。もし分かればですが、この16往復32便というのは、基本的にはインバウンド専用のもので、台湾の方が乗ってきて台湾の方が乗って帰るというようなイメージだということですか。

知事

はい、今のところそうですね。できれば、空（から）で帰すというようなことではなくて、大体は、乗ってきて、先に来ていた方が帰りの便で帰るというふうになるのですけれども、ただ空の便というのも何便か出るわけでありますので、そういうところを相互交流みたいにしてこっちからも行けるというようなことも大事になってくると思うし、長い目で見ますと、やはり一方通行で台湾の方をお呼びする、来ていただくということだけではなくて、双方向で、こちらからも行く、行ったり来たりという往復が私は長持ちさせる秘けつなんだというふうに思っています。

旅行会社の方からもご意見いただきましたけども、台湾の方は、50%近くの方がパスポートを持っているのだそうです。日本の方は、非常にパスポートを所得している人が少ないと、2割に満たないというようなことで、台湾から日本へ訪れる方と比べると日本から台湾に訪れる方は半分だというようなことを言われました。やはり、相互に、双方がwin-winになるようにですね、お互いに交流するということなどところにもっと力を入れていくというのが、定期的に空便が運航されるようになることを目指す上ではね、そういうことが大事なのかなというふうに改めて実感をしているところです。

記者

ありがとうございます。もう1点、台湾では紅王のプロモーションもされてきたわけですが、その反応などはいかがだったのでしょうか。

知事

はい、台湾ではさくらんぼを見たことも食べたこともないっていう人がたくさんいらっしゃいます。それで、プロモーションした時はですね、男性も女性もおりましたけど、特に若い女性が結構多かったかなというふうに思いますが、歓声が上がっておりました。そのくらい喜ばれたということです。小さくて赤くてかわいい、それで、食べてみたら美味しいというようなことで、私は、人気が出るということを非常に期待感を持ったところです。

紅王はですね、従来の品種よりも、「紅秀峰」も大丈夫なんですけども、他の品種に比べますと日持ちがするというのも、大きさだけじゃなくて日持ちがするというのもありますので、輸出も視野に入れております。今回の紅王も、ちょっと時間がかかって先に送っておいたものだというふうに担当から聞いたものですから、農林水産部のほうから後でお聞きしたんですけどね、やっぱり日持ちするんだね、ということでもまったく傷んでいなかったということが

ありましたので、やはり自信を持って山形県の紅王を台湾の多くの皆様に将来的には、楽しんでいただけるようにしたいなというふうに思っているところであります。

記者

ありがとうございました。

記者

山形放送の大矢です。よろしくお願いします。

ビニールハウスの強風被害について伺いたかったんですけども、昨日の県の発表で800件確認されたというところだったんですけども、この数この後増える感じなのか、あと県として、どういうふうに今後、支援とかを視野に入れてらっしゃるのかっていうのを2点伺いたしたいと思います。

知事

本当に急な突風でありまして、816件ぐらいだったかな、把握できたんですけども、割合ですね、聞いたところによりますと、そんなに大掛かりなというよりは軽微なものが大変多かったというふうにも聞いているところです。昨日さくらんぼのイベントがありまして、組合長さんとかそういう方々からちょっとお話を聞いてきたんですけども、さくらんぼが間もなくシーズンを迎える観光果樹園でありましたり、また販売というようなことで、シーズンを目の前にしている大事な時に被害に遭ったということで、さくらんぼそのものに大きな被害というのは、まだ確認されていないと聞いてますけど、大きくなって色づいたところに雨が降ると実割れが生じるというようなことで、大変心配をしているということでありました。ただ、本当に幸いなことに、この2、3日雨が降っておりませんので、まずなんとか助かっているというようなお話でありました。ですから、そのビニールを直すということもあるし、できるだけ早く直すよというところは組合長さんたちも農家の方々におっしゃっているということでありました。農家の方々にとっては直すということと、あと直す前にもうもいってしまうというようなことも非常に有効だというふうにおっしゃっている方もおられるそうで、次の雨が来る前に収穫しているというようなこともお話としては聞いてきました。

県の農林部でどういうふうに把握しているかというのは、後ほど聞いていただきたいというふうに思っております。

やっぱりどのぐらいの程度の被害であったのかということは、調査中なんだろうと思っておりますので、その調査を見て、どういう支援ができるのかということを考えていかなければと思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の仲條です。

ごめんなさい、台湾のほうに戻ってしまうんですけども、チャーター便が見込まれる時期が10月の上旬から11月の上旬というタイミングでございまして、その時期の山形の魅力と申しますか、台湾の方に、久しぶりにいらっしゃる方多いと思うんですけども、どういうところをご覧になっていただきたいと思われませんか。

知事

そうですね、台湾の方にとって魅力を感じられるのは、やはりモミジですね。秋の紅葉、冬の雪というのは大変な魅力なんだそうでありますので、まず紅葉を楽しんでいただければというふうに思っております。

あとはやはり、各地の自然豊かな景色でありましたり、秋ですから、収穫の秋でありますので、美味しいお米、またフルーツ、それから芋煮ですね、そういう食文化でございますので、そして、それ以外にもラーメンとかそばも山形県は大変美味しいので、温泉もありますね。本当にいろいろなものがありますので、しっかりと山形県を満喫していただければなというふうに思っております。

記者

共同通信の中村と申します。

話は戻るんですが、北朝鮮のミサイルの件で、山形市でも政府と共同の避難訓練は予定されていると思うんですが、昨日の訓練で内閣官房の方が、今後も各自治体で地道に訓練をしていくということが住民の方への周知につながるというふうにおっしゃっていたのですが、今後、県のほうで自主的に訓練をするとか、そういった予定はありますか。

知事

そうですね、自主的にどういう訓練を考えているかということについては、担当から聞いてみたいというふうに思っています。

やはり日頃からその訓練を身につけておく、しかも小さい頃から体に覚えさせておくと言いますか、その時になってからでは遅いと言いますかね、やっぱりすぐ体が動けるようにしておくということが大事だと思いますので、やはり小さい頃からの、例えば小学校くらいからのね、防災訓練というのは非常に重要だというふうに私は考えておまして、常々担当にもそういうふうにご話をしているところであります。

この訓練のほかにもどういう訓練をしているかというようなことについては、担当のほうから聞いてみたいというふうに思っております。

記者

緊急一時避難施設とか、地下施設が既に多く指定されていると思うんですが、今ある施設で十分で、特に今後増やす方針は今のところはないという感じでしょうか。

知事

そうですね、緊急一時避難施設というのが県内に908施設ありますので、まずやはりそこを、その地域の皆様にしっかりと周知していくということが大事なんだろうと思っております。

緊急時取るべき行動、そしてその避難施設ですね、この避難施設についてどういうふうな周知をしていくのかということも私も担当に聞いてみたんですけども、ホームページはもちろんのこと、各市町村と連携してですね、回覧板というような手法もしっかり使って、県民の皆様、やはり全員に広く周知をしていきたいというようなことでありました。

記者

ありがとうございます。ちょっと話は変わって、また、先日厚労省から人口動態が公表されて、県内は（合計特殊）出生率が1.32という数字が出たと思うんですが、この過去最少になったという数字への受止めと、今後の対策があれば教えてください。

知事

はい。本県の令和4年の出生数は5,674人でありました。対前年比で224人、率にして3.8%の減となりました。前年と比べ、減少率は鈍化（補足：令和3年の対前年比は5.1%の減）しているんですが、若い女性の減少、それから未婚化・晩婚化による従来からの出生数の減少傾向に加え、新型コロナによって、妊娠・出産を控える動きもみられたという、これも影響していると考えております。

また、本県の令和4年の合計特殊出生率は、記者さんがおっしゃったように、1.32となりました。これは前年と同じ数字です。全国平均は1.30から1.26へ低下しているんですね。そういう中で、数値が上昇したのは2つの県（補足：鳥取県・富山県）でありますし、現状維持というのは本県を含んでやはり2つの県だけ（補足：本県・石川県）でありました。本県の全国順位は33位から29位へと上昇し、東北・北海道では1位となりました。全国的には低下傾向にある中、踏みとどまったと言えると思いますが、一方で、若い女性は減少しております。依然として憂慮すべき状況であるというふうに考えております。

このたびの出生数・合計特殊出生率について、改めて危機感を持って受け止め、人口減少の克服に向けて、若者の県内定着・回帰や、結婚から妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援など、実効性のある施策に、なお一層しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

また、本県の令和4年の婚姻数ですが、3,184組でありました。これは対前年比で202組、率にして6.0%の減であります。この理由としましては、人口減少もありますし、未婚化の進展もあります。そのほか、やはり新型コロナの影響による出会いの機会の減少などもあったもの

と考えております。婚姻数の減少は、今後の出生数の減少に直結しますので、引き続き、やまがたハッピーサポートセンターを中核として、市町村や関係団体とも連携しながら、結婚支援にも注力していきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。最後に、政府のほうでも「異次元の少子化対策」といったような対応を取ると言っていますが、その評価と、財源として今、社会保険料の値上げなんかも検討されているところではありますが、その受止めを教えてください。

知事

はい。少子化対策というのは、まずは政府が全国一律に、強力に推し進めていくべき課題だというふうに考えております。日本全体がそういう状況であります。政府が6月1日に公表した「こども未来戦略方針」案によりますと、3月末に「次元の異なる少子化対策」として示された具体的施策について、児童手当の拡充や保育士の配置基準改善、また、男性育休の取得促進など、そのほとんどが盛り込まれたということは評価したいというふうに思います。財源論もありますが、それはしっかりと国会で議論をしていただきたいというふうに思っております。

また、少子化対策というのは、政府が全国一律で行う施策と、それから、地方がそれぞれの実情に応じてきめ細かに行う独自の施策とが組み合わせることで効果的なものになると考えております。政府におきましては、引き続き、地方の声を十分にお聴きいただいて、地方自治体の長期的・安定的な少子化対策財源の確保・充実につきましても、「こども未来戦略会議」の中でしっかりと議論していただきますよう、そのようなことを期待しているところであります。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願ひします。

紅王についてなんですが、知事からもお話ありましたとおり、9日、東京へトップセールス、10日には大阪へということで、首都圏だと「佐藤錦」の知名度というのが圧倒的に高くて、ある意味での新品種が入り込む難しさというのがあるのかなというふうに思うんですが、これはどう差別化して売り込むかというところを教えてください。

知事

はい。そうですね、やはりさくらんぼイコール佐藤錦という、非常にその佐藤錦の名前が浸透しておりまして、そういう中で紅秀峰だったり、やまがた紅王、山形ではいろいろな種類の

品種をですね、開発・育成しているんだということをしっかりPRをして、特にやまがた紅王に関しては今年が本格デビューでありますので、新しい品種だということ、しかも大玉、新しい品種なんだということをやはり声高にPRすることが大事なのではないかと思っております。

それをさまざまなツールでPRしていくということが大事でありますし、特になんと言っても人間の力は大きいと思っておりますので、紅王応援大使をですね、私は台湾でも任命してまいりましたけども、つや姫の時の「つや姫大使」の皆さんも本当にいろいろ名刺を配っていただいて応援していただきました。紅王に関してもですね、例えばそういった手法でもしっかり使って、一人でも多くの方に名前を覚えていただいて、そしてファンになっていただく。それでお買い求めいただくのはもちろんですけども、山形県においでいただいて、もいで楽しんでいただくというようなことにもつなげていければというふうに思っております。

やっぱり大玉の新しい品種だと、20年以上かけて開発した素晴らしい、おいしい品種だと、大型新人だということでPRをしてまいりたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

読売新聞の藤本です。よろしくお願ひします。

私から2点で、まずインバウンドについてだったんですが、台湾でのトップセールスを行ったということだったんですけども、先ほど秋の山形の魅力、知事からお話ありましたけれども、(新型コロナの)5類移行後、向こうの旅行会社の方とお話されて、向こうの方の嗜好、どういふことを望んで旅行されるかとか、そういうのは変化があったかどうかということについて、それで、もしそういうのがあれば、他県との競争という話になっていましたけれども、山形として、その5類移行後、新たにどういふ観光PRを考えていかなければならないかということについて、まず1点お願いいたします。

知事

はい。コロナ前とコロナ後との、どういふ変化があったかというところは、まだ担当のほうで把握の途中なのではないかというふうに思っています。向こうでもコロナ前とコロナ後というようなことはちょっとお聞きしたことはないと言いますか、あちらのほうからいろいろお話もあったんですけども、特にそのところについてのお話はあまり聞かれなかったと思います。

ただ、「山形県に行きたいという方はたくさんいるんです」と。行かれなかったので、3年間ですね、「どんどん行きたい人はいると思います」というお話はいただきました。

そして、昨年5月、6月頃にも行きたかったんですが、日本側の事情で行けなかったんだというような、大変残念だったというような、こっちの受入れ態勢ですね、日本側の受入れ態勢というようなことも整わなかったということに対してのお声もちよっと聞いてまいりました。

今年は、昨年の秋から水際緩和、政府でやってくださいましたので、少しずつインバウンドも戻ってきているという状況だと認識をしております。

コロナ前とコロナ後でどういうふうに変ったかと、もう一度しっかりと把握していければというふうに思っています。

コロナに関係なくですね、例えば10年前とそのあとというようなことで、このぐらいのスパンで考えると、団体旅行が少なくなって、個人旅行が増えているというのは台湾とかタイとか、本当にアジア全般的にそのことは旅行会社からお聞きをしたところですよ。やはり個人の皆さんがご自分で調べて、今スマホとかそういうツールがありますので、もう自分で調べて「ここに行ってみよう」とかですね、そういった個人のお客さんが多くなっているというふうに聞いていますので、やはりどういったニーズがあるのかということは常に把握をしていく必要があるなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。もう1点、話は変わるんですが、昨日、岸田内閣が掲げる「新しい資本主義」の原案というものが出されたんですけども、そちらで学び直しという、リスクリングの話が出ていたんですけども、県としても今年度予算にも計上されていますけれども、県としてリスクリングの支援というところをどういったふうに行っていきたいかというのをお聞かせください。

知事

そうですね、やはりこのコロナ、3年間のコロナの状況の中でね、特に目ざましく進展したのがやっぱりデジタル化だと思うんですよ。DXということがあります。急に進んだという印象もあります。

ですから、もちろん県庁とか市町村ということで、そこを連携してですね、スキルアップと申しますか、リスクリングというようなことをしっかり一緒になって取り組んでいくというような体制を整えていると思いますし、あと、海外派遣というようなことにつきまして、民間企業ともタイアップしてですね、将来のリーダーを養成するというようなことで、海外派遣ということにも県もサポートするというのも取り組んでいると思います。

あとは、やはり県民皆さんの底力を上げていくということも非常に重要でありますので、それぞれの企業でどういうことをなさるのか、また、これから就職、あるいは再就職しようという方々のためのね、スキルアップという、その場面でのリスクリング、このことにもやはり大いに力を入れて取り組んでいく必要があるというふうに捉えているところであります。

記者

NHKの都倉と申します。よろしく申し上げます。

明日でですね、コロナが5類に移行されて1か月が経つということになるんですけども、知

事、この1か月間を振り返ってみて、どのように受け止めているかということが1点と、トラブルなどがあったらとか、そういう部分があればお話を伺いたいというところです。

知事

はい、わかりました。

今年の5月8日から新型コロナが5類に移行しました。そのことに伴って、新規感染者数の動向ということについては、定点医療機関（43か所）における1週間の合計を把握して、毎週水曜日に公表しております。

先週公表までの3週間の状況を見ますと、公表した1定点当たりの新規感染者は、概ね横ばいで推移をしているところであります。

医療提供体制につきましては、まず、入院に関してですが、先週水曜日公表時点の入院患者数は50名でした。前の週の同じ曜日（5月24日）と比べて増加しております。前の週は39名でありました。一方で、入院調整は医療機関の間で概ね順調になされているとお聞きをしております。一部では院内感染も見られますが、総じて病床が逼迫するような状況にはないものと捉えております。

また、外来は、現時点で471箇所の医療機関で対応していただいております。移行前は457箇所でありましたから、少し増えております。新たにコロナの診療を開始する医療機関から申出も届いており、今後段階的に拡大してまいります。

総じてこの約1か月間は、相談窓口の対応を含め、大きな支障や混乱は見られず推移しております。今後も感染状況等を注視しながら、引き続き5類移行後の円滑な対応に努めてまいりたいと考えております。

加えまして、ワクチン接種ですけれども、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方などを対象とした追加接種が、各市町村において、5月以降開始されております。希望される方はなるべく早く接種されますようお願いいたします。

また、発熱などの体調不良時に備えて、抗原検査キットや解熱鎮痛薬などをあらかじめご準備されることをお勧めいたします。